



こいのぼりを掲げた厚真ライオンズクラブの参加者

厚真ライオンズクラブが地域貢献活動

厚真ライオンズクラブは4月27日、約20人が参加して上厚真パークゴルフ場の河川敷に恒例のこいのぼり58匹を掲げ、敷地内のごみを拾いました。

上厚真地区のこいのぼりの掲揚は、平成14年から実施していて、通学路を利用する児童の目を楽しませています。大捕孝吉会長は「今年もお子さんから『いつ、こいのぼりを揚げるのですか』と問い合わせがありました。喜んでもらえたら嬉しいです」と話しました。

鶴川漁業協同組合厚真支所 青年部と女性部が16回目の植樹

鶴川漁業協同組合厚真支所の青年部と女性部13人が5月11日、胆振東部地震で斜面崩落した幌内地区の山林で、カラマツの苗木440本を植えました。

森林再生と水資源や河川・海洋環境の保護などを目的に続けている活動で、同支所が行った植樹はこれまでに7140本、5haに及びます。参加者は、青空の下で額に汗をかきながら、スコップなどで穴を掘り、丁寧に苗木を植えました。



幌内地区で植樹に汗を流す鶴川漁協厚真支所の青年部と女性部の参加者

日胆地区測量設計協会が 町に500万円寄付



目録を手にする宮坂町長と川又会長（中央）

日胆地区測量設計協会（川又敏英会長）は5月13日、地域貢献に役立ててほしいと胆振東部地震最大の被災地である町に500万円を寄付しました。町営宇隆牧場に整備される展望広場の整備に活用されます。

寄付は、同協会設立50周年を記念して申し出がありました。町から要望を募り、7月にも完成を予定している展望広場のウッドデッキ（幅約7m、長さ約14m）や日陰棚（パーゴラ）の設置などに充てられます。

川又会長は「節目の年に地域貢献できて、うれしいです」と話し、宮坂町長は「展望広場が完成すれば、町で一番見晴らしのいい場所になります。町のシンボルとして、気軽に立ち寄れる場所にしたい」と謝意を伝えました。

安達博司さん・悦子さんが最優秀賞 令和3年度新規就農優良農業経営者表彰



表彰を終えた小田原理事長、安達博司さん、悦子さん、宮坂町長（左から）

北海道の優れた新規就農経営者をたたえる令和3年度新規就農優良農業経営者表彰が4月18日、町長室で行われ、公益財団法人北海道農業公社の小田原輝和理事長が最優秀賞の安達博司さんと妻悦子さん（厚和）に盾などを贈りました。

胆振管内での最優秀賞受賞は平成28年度以来2人目で、町内では初めて。安達さんは、地域おこし協力隊の第1期生として移住・就農し、ホウレン草を主力作物として栽培しています。北海道内の平均反収より高い収量で安定出荷し、後進の指導や相談に乗るなどリーダー的役割も評価されました。

博司さんは「気がついたら10年。受賞は率直にうれしいです。これからも新規就農を目指す人が、一歩踏み出すお手伝いをしたい」と話し、悦子さんは「家庭も仕事も顔が見える環境に満足しています。消費者目線を大切にして、今後も頑張ります」と受賞を喜びました。

白老町で発生した高病原性鳥インフルエンザの感染拡大防止のため、厚真町家畜自衛防疫組合（山田澄恵組合長）は4月22日、浜厚真地区で養鶏を営むテンアール株式会社（小林廉代表取締役）に防疫剤を寄贈しました。

防疫策を講じている同社の負担軽減のため、同組合が協力を申し出ました。山田組合長は「一生懸命頑張っているので、少しでも防疫に役立ててください」と声を掛け、20kg詰め消石灰30袋を寄贈。小林代表は「防疫には万全を期していますが、不安でもあります。ご協力に感謝します」とお礼を述べました。町も、発生直後に同社を含む町内3軒の養鶏業者に防疫剤を届け、感染防止に努めています。

厚真町家畜自衛防疫組合が 養鶏農家に防疫剤贈る



消石灰を贈る山田組合長（左）と小林代表



オープンした大沼野営場

大沼野営場がオープン

豊かな自然が人気の大沼野営場が4月28日にオープンし、待ちわびた家族連れが町内外から訪れ、アウトドアを満喫しました。

外周約4kmの沼と木々に囲まれたロケーションが人気の有料キャンプ場で、貸し出し用のテントなどもあります。来訪者は、沼のほとりにテントを張り、森林浴やたき火を楽しみながら、ゆったりとした時を過ごしました。